

KIT虎ノ門大学院 学習支援計画書(シラバス)

科 目 名		科目コード	単位数	開講期	講義形式
ソーシャルファシリテーション特論		Z 222	1単位	3学期	ハイフレックス
Facilitation for Social Change					
科 目 分 野		課 程 領 域			
経済学・グローバルビジネス		ビジネスマネジメント専門科目			
担 当 教 員 名	メールアドレス	連絡方法 / オフィスアワー			
野村 恭彦 村上 敏也	-	メールにて随時			

関 連 し て い る 科 目 (履修推奨科目)		
イノベーションファシリテーション特論1、2	チェンジマネジメント特論1、2	企業戦略特論1
スローリーダーシップ		

授 業 の 概 要 と 到 達 目 標

授業の主題と概要

企業・行政・NPOのセクターの壁を超えた多様なステークホルダー(利害関係者)が集い、地域・社会の課題解決をめざす「革新的な協働の場」を創出し運営していくために必要な知見の獲得と資質を学ぶ。本科目では、自分自身が社会イノベーションを起こすための技術だけではなく、オープンイノベーションの生態系をデザインし、多数のイノベーションが群として生まれるプログラムを推進できる人財を育てる。

本授業の特徴の一つは、複雑な社会課題に対する場づくりとファシリテーションの習得に、ケースメソッド教授法を用いることである。もう一つは、ケースメソッドのコンテンツとして、社会イノベーションの最先端の取り組みを取り上げることである。本授業の二人の教授が直接関わってきた、渋谷区や広島県でのクロスセクターでの社会課題解決の場の具体的なケース、そして中小企業庁の推進する、経済性と社会性を両立するローカルゼブラ企業のケースなど、社会イノベーションを実現するために必要な個人や組織の要件について議論する。特に、複雑なステークホルダーの間の協働の場のデザインとファシリテーションの要点についての学びをさらに深める。これらのケース討議を通じて、イノベーションに必要な5つの資質、すなわち、分野・問題・アイデアを「関連付ける力」、本質・因果・構造を探り出す「質問する力」、回りの世界を注意深く「観察する力」、広く多様な人脈と「ネットワークする力」、アイデアを試行し経験に挑む「実験する力」を獲得する。

到達(修得)目標

協創の場を自ら企画し、人とお金を集め、成果をあげるところまでファシリテーションするための知見を得ること。

受講対象者

企業の経営企画部門、マーケティング部門、R&D部門、新事業部門など、オープンイノベーションに関わる担当者。
自治体の経営企画部門、市民協働部門など、企業と民間の協働を促進する部門の担当者。
企業横断のオープンイノベーションプラットフォームを運営するプロデューサー。
コワーキングスペースなど、協働の場づくりが求められる場を運営するプロデューサー。

履 修 上 の 注 意 事 項 や ア ド バ イ ス

- ※ 欠席が、2コマ(90分=1コマ)を超える場合は、単位修得にも影響する。欠席の際は、事前連絡を徹底すること。
- ※ 担当する教員は実務家教員とする。
- ※ 授業にて配布する資料等教材や講義収録映像・音声の無断転用・転載を禁じます。

コ ン ピ テ ン シ 修 得 目 標

知識領域(Y軸)		ヒューマンパワー(Z軸)		思考プロセス(X軸)	
Y1: 基盤法令・テクノロジー		Z1: 問題発見力	○	X1: 企画	○
Y2: 応用法令・実務・テクノロジー		Z2: 独創力		X2: 構想	
Y3: グローバル法令・実務		Z3: 問題解決力	○	X3: 調査・分析	
Y4: マネジメント	○	Z4: プレゼンテーション力		X4: 設計・開発	
Y5: 戦略立案	○	Z5: 変革推進力	○	X5: 変革	○
Y6: 標準化		Z6: コミュニケーション力	○	X6: 導入・運用	
		Z7: リーダーシップ力	○	X7: 評価・検証	
		Z8: ネゴシエーション力		X8: リーガルマインド	
		Z9: オーナーシップ力		X9: ライフサイクル	

プ ラ ク テ ィ カ ム

イベント / ケース		教育技法	マテリアル / ツール
1	広島県主催「イノベーション道場(TIES)」のケース	ケースメソッド教授法	ケースの配布
2	渋谷区協賛「渋谷をつなげる30人」のケース	ケースメソッド教授法	ケースの配布
3	自身の関心のあるテーマでのケース概要作成		
4	ローカルゼブラ企業について調査しケース概要作成		
5	プレゼンテーション: 協創プロジェクト構想		

評 価 の 方 法		
(総合評価項目と割合)		評 価 の 要 点
出席	10%	毎回、事務室より出席簿を準備する。 プラクティカムシートでは授業の進捗に合わせ課題を出し、その内容を授業内にて確認し評価する。最終レポートの提出を求め、総合的に授業の理解度を確認する。
プラクティカムシート	40%	
学習プロセス（クラスでの貢献度）	50%	
合計	100%	

テキスト・参考図書など		備 考
※ 追加する場合を含め、一部変更となる場合もございますので予めご了承ください		
テキスト (購入が必要)	※資料を適宜、配布します	
参考図書 (購入は任意・講師推奨)	「イノベーションのDNA」クレイトン・クリステンセン他、著	
参 考 U R L		

コマ	学 習 内 容		事前準備・課題	担当者	時間
1.2	・イントロダクション: 協創の場のデザインとファシリテーション、ケースメソッドとは ・相互傾聴: 自分自身が関心のあるケースの探求			野村	180分
	・ケース1: 広島県のケース討議 ・ケース2: 渋谷区のケース討議		広島県と渋谷区のケースを読み、論点を整理してくる(宿題)	村上	
	イベント	ケース学習実施			
3.4	・発表: 各自の当事者性のあるテーマ、または調査したテーマのケース概要		自身の関心のあるテーマでのケース概要の作成(宿題)	野村	180分
	・「革新的な協働の場」についての深い対話 ・「ソーシャルファシリテーション」についての深い対話			村上	
	イベント	作成したケース概要の発表			
5.6	・発表: ローカルゼブラ企業についての調査結果		ローカルゼブラ企業について調査しケース概要作成(宿題)	野村	180分
	・「革新的な協働の場」についての深い対話 ・「ソーシャルファシリテーション」についての深い対話			村上	
	イベント	調査したケース概要の発表			
7.8	・プレゼンテーション: 協創プロジェクト構想		自分自身が取り組みたい協創プロジェクト構想の作成(宿題)	野村	180分
	・クロスセクター協創の場のデザインとファシリテーション」についての振り返り			村上	
	イベント	プレゼンテーション			

※ 講義日程は、学事ポータルの講義日程表をご参照ください。
 ※ 学習内容やスケジュールは、状況に応じて一部変更・改善が生じる場合があります。